

「武蔵野の公園」グループ

事業計画書の見直し

西武・武蔵野パートナーズ

目 次

II. 事業計画

2 人員配置計画等

- (3) 人材の確保と職員の技術・能力向上への取組 30

3 運営管理計画

- (1) 都立公園の管理運営についての方針と具体的な取組 32
- (2) 利用者要望の把握方法と管理業務への反映方法 34
- (3) 質の高いサービスを提供するための具体的な取組 36
- (4) 公園の魅力向上と利用促進を図るための自主事業等の提案 38
- (5) オリンピック・パラリンピック後も見据えた公園の魅力向上の取組 40

4 施設維持管理計画

- (1) 適切な維持管理を行うための取組 42
- (2) 事故、自然災害や感染症等を未然に防ぐための安全対策、発生時の対応 44
- (3) 要望やオリンピック・パラリンピック後も見据えた施設補修、施設改良への取組 46
- (4) 維持管理業務の進め方（野川公園） 48

(3) 人材の確保と職員の技術・能力向上への取組

1) 人材確保と配置の方針 ～トータルマネジメント力と専門力のある人材の配置～

これからの公園管理には、上位計画や各公園のマネジメントプランをベースに、さまざまな利用者ニーズを反映し、時代の変化に対応した公園管理を柔軟に進めていく人材が必要です。そこで私たちは、以下の方針に基づいた人員を各公園に配置、これを継続します。

- 公平・平等・安全を基本とした公の視点を持ち、公園管理に必要な知識・姿勢を備えた人材
- 公園管理に関わる「人材・資金・情報」をトータルにマネジメントできる経験豊富な人材
- 公園の特性に応じ、「施設維持管理」「自然環境保全」「健康・スポーツ」「協働・イベント」といった多岐にわたる知識・経験を発揮できる「専門力」のある人材
- 「おもてなし」の心を持ち、明るい笑顔での確かな接客と対応ができる人材
- 地域の資源や情報に詳しく、地域愛のある人材
- バイリンガルや外国人などのグローバルな人材

また地域雇用を促進するほか、ワーク・ライフ・バランスや男女共同参画に配慮した職場環境を整え、女性・高齢者・障がい者雇用に積極的に取り組みます。

2) 業務執行体制 ～全体・公園別・部署別の管理体制に基づく配置～

6公園2緑道を効率的かつ効果的に管理運営するため、全ての公園・緑道を統括する「全体管理」、公園毎に正確・確実に管理する「公園別管理」、部署毎に専門性を発揮する「部署別管理」の3つの管理体制による業務の執行を継続します。

全体管理	公園別管理	部署別管理		
西武・武蔵野 パートナーズ 統括所長 副統括所長	野川公園 所長・副所長	総務	業務スタッフ	統括所長の事務的な業務の補佐。グループ全体の事務・経理を行います。
			受付スタッフ	電話や窓口で利用者へ案内等の対応を行います。
	六仙公園 東伏見公園 担当スタッフ	維持管理	維持管理 スタッフ	植栽維持管理、施設維持管理、修繕（軽微なもの）、巡回・点検、警備、利用案内や利用指導を行います。
			緑道キーパー	主に緑道の巡回・点検、維持管理を行う専門スタッフ。維持管理、修繕（軽微なもの）、清掃、利用案内・指導などを行います。
			パーク コーディネーター	各種ボランティア活動や、産官学民など多様な主体による懇談会や企画会議のコーディネート、イベントや講座などの企画実施、地域の様々な団体との連携促進を行います。
	狭山・境緑道 玉川上水緑道 緑道キーパー	パーク レンジャー	パーク レンジャー	自然環境調査と保全、環境学習・展示など自然情報の提供、安全確認と利用指導等の業務を行います。
			スポーツ コーディネーター	健康や運動に関して適切な指導、アドバイス、各種スポーツ教室（テニス、ランニング等）を企画実施します。
	武蔵野公園 所長・副所長	防災・安全 コーディネーター	防災・安全 コーディネーター	防災・安全に関する地域連携の促進、防災学習・訓練の実施、防災関連資料の作成を行います。
			武蔵国分寺公園 所長※・副所長 ※副統括所長を兼任	広報スタッフ
		PDCA スタッフ		意見情報を把握し、PDCA サイクルを回すことで継続的な改善案の提案や利用者ニーズを掘り起し、公園管理に反映します。

■ 統括・副統括所長：統括責任者として、東京都・各種関係機関・本部との調整等を行いながら、公園グループ全体をまとめます。

■ 所長・副所長：公園の責任者として、各関係機関・部署間の調整、予算管理や経理業務、公園スタッフの管理、各公園との情報交換等を行います。

パートナーズ
本部

事業計画の作成、予算管理、事業執行の決裁、全体の管理水準・履行状況の確認、東京都・関連機関との協定・委託料等に関する連絡調整、安全・品質・コスト・労務管理、広報、繁忙期・緊急時支援 など

【パークデザイナー】

グループの各公園のソフト面・ハード面のトータルデザインを行うことで、全体のアートディレクションを担当

【ランドスケープキーパー】

武蔵野らしい公園の景観を保つために、定期的に各公園を巡回し、維持管理における技術指導、樹木点検などを担当

【リソースマネージャー】

エコロジカルネットワークを形成する崖線や緑道などの自然環境、公園周辺の歴史文化資産の魅力を最大限発揮するための企画・プランニングを担当

これらの人材配置において、各部署の業務内容に適した**専門的な有資格者**の配置を継続します。また各構成団体に在籍する有資格者による支援体制、資格取得の奨励なども継続します。

【各構成員に所属する有資格者等の種類】

項目	資格名
公園管理	公園管理運営士
植栽管理・自然、環境保全	樹木医、環境再生医（上級）、技術士（環境部門、建設部門、総合技術監理部門）、自然再生士、植栽基盤診断士、街路樹剪定士、造園修景士、1級造園施工管理技士、1級土木施工管理技士、1級建築施工管理技士、1級管工事施工管理技士、1級造園技能士、造園工事基幹技能者、測量士、一級建築士、監理技術者、環境緑化樹木識別検定、グリーンアドバイザー、2級ピオトープ計画管理士、1級・2級ピオトープ施行管理士、初級園芸福祉士、園芸装飾技能士（2級）、生活園芸士、eco検定、生物分類技能検定（動物部門 1・2級）、農業適正指導アドバイザー、農業指導員、チェーンソー作業員、チェーンソー・刈払機安全衛生教育修了者、振動工具取扱作業員、移動式クレーン運転士、フォークリフト運転技能者、車両系建設機械運転技能者、高所作業車運転技能講習受講者、玉掛技能者、研削といし取替試運転作業員等
協働・イベント	社会福祉士、東京都緑のボランティア指導者（緑地保全活動1級）、ボランティアコーディネーション力検定（2・3級）等
安全管理、防災	防災士、防火管理者、消防設備士、衛生管理者、安全衛生推進者、応急手当普及員、普通・上級救命技能、赤十字救急法救急員、安全手当指導員、幼児安全法支援員、遊具日常点検講習修了者、危険物取扱主任者（乙種）、第四級アマチュア無線技士、警備員指導責任者等
スポーツ関連	公益財団法人日本体育協会公認上級テニスコーチ、柔道整復師、公益財団法人健康・体力づくり事業団認定健康運動実践指導者、健康運動指導士、公益財団法人日本キャンプ協会キャンプインストラクター、日本ライフセービング協会認定C.P.R（心肺蘇生）、社団法人日本ウォーキング協会公認ウォーキング指導員、ミスノシューズアドバイザー、公益財団法人日本サッカー協会公認C級指導員等
環境学習関連	森林インストラクター、ネイチャーゲームリーダー、プロジェクトワイルドエドゥケーター、プロジェクトWETエドゥケーター、自然観察指導員、学芸員、自然体験活動（CONE）指導者等
その他	福祉住環境コーディネーター2級、食品衛生責任者・管理者、サービス接遇実務検定（1級）、色彩検定（2級）、東京都公害防止管理者、建設業経理事務士（1級）、調理師、教員免許、手話技能検定等

3) 技術・能力向上の取組み ～スタッフの基礎的技術の習得と専門的技術向上～

定期的な研修（内部・外部研修、講義・ワークショップ等）や視察、OJT等によって、全スタッフに徹底した教育を行い、公園管理運営に必要な知識・技術の向上を継続します。特に首都直下地震の想定や少子高齢化への対応に力を入れ、防災・安全管理や接遇をはじめとした様々なタスクをこなせるよう、スタッフ一人ひとりのレベルアップに力を入れます。また、協力会社など、公園管理運営に携わる団体・個人が情報や技術を共有できる機会として、定期的な会議や研修を継続し積極的に行います。



高齢者体験器具を用いた研修（武蔵国分寺公園）
心肺蘇生法及びAED取扱い方の研修（野川公園）
国際シンポジウムへの参加（ニューヨーク市）

スタッフ研修	スタッフの基礎技術の習得 (全スタッフ対象)	接遇、個人情報保護、普通救命技能講習（心肺蘇生法およびAED）、緊急時対応、ユニバーサル研修、コンプライアンス研修など、基礎技術研修を定期的（各年1回）に実施。構成団体である（一社）防災教育普及協会のノウハウを活かした公園管理者ならではの防災に関する学習会や園内の自然・歴史環境や地域の基本情報についての研修などを継続実施
	専門的技術向上のための人材育成 (各部署常勤スタッフ対象)	外部講習やシンポジウムへの参加、国内外先進事例の視察、ワークショップ形式でのスキルアップを継続実施。内容は、パークマネジメント、維持管理、安全管理、動植物保全・生物多様性、インタープリテーション、ボランティアコーディネーション、広報など（各部署ごとに年1回以上）。各種資格の取得を継続奨励
	OJTによる人材育成	日常業務の中で円滑かつ、きめ細やかな研修を実施するため、OJTを継続実施。特に公金事故の再発防止策として構築した事務支援システムを活用した公金取扱に関する研修を継続的に行い、適切な公金の取扱を徹底します。

情報・技術の共有化等	本部会議	構成団体の責任者が参加（月1回）。履行状況や事業内容の確認、課題への対策、スタッフ能力向上の取組等について話し合う。パークデザイナー、ランドスケープキーパー、リソースマネージャーが参加し、目標達成のための戦略的な意見交換を行う。
	スタッフミーティング	公園全体のビジョンの確認、日常の管理運営における問題点を話し合うむさしのミーティング（月1回・所長、副所長、各部署責任者）を実施。公園管理所別（年4回以上、管理所ごとに全スタッフ）、部署別（適宜）のミーティングを開催。管理所毎に朝礼、終礼を実施。スタッフの危機管理意識の向上、アイデアの検討によるよりよい公園づくりへの意識啓発を図る。
	協力会社等との情報共有	維持管理を担う協力会社のスタッフも公園管理を担う一員として、自分自身及び利用者への安全管理や接遇に関する情報を、日々の朝礼時及び安全会議（年3回）を設けて共有。普通救命技能研修を、協力会社のほか公園ボランティアにも継続実施（年1回）
	各種マニュアルの整備	これまでの指定管理実績等から培ったノウハウを踏まえ、独自の各種マニュアルを作成、情報の更新を加えつつ、協力会社等を含めた全スタッフが習得する。【整備しているマニュアル】安全管理、コンプライアンス・接遇、個人情報保護、ユニバーサルデザイン、公園施設管理、植栽管理、トイレ清掃、食品安全衛生、委託業者入場、遺失物管理、イベントほか

4) その他の取組み

① 女性・障がい者・高齢者の雇用推進

- ・平成30年度現在、武蔵野の公園グループで雇用する公園スタッフの内、約40%が女性であり3名の所長のうち2名が女性所長です。今後も同様に女性の活躍の場を継続します。
- ・「障がい者雇用の促進等に関する法律」に基づき、積極的に障がい者の雇用に努めており、これを継続します。
- ・高齢者が青空の元、生きがいを持っていきいきと働ける環境づくりも継続します。

② ワーク・ライフ・バランスの実現

残業の削減、年休取得の奨励を積極的に推進し、仕事と生活が調和する職場環境を継続します。働き方の見直しによるサマータイム制の導入やダイバーシティにも積極的に取り組みます。

③ コンクール等への応募によるチャレンジ精神の醸成

都市公園コンクールの応募や、学会等への論文提出など、公園管理で培った技術や知見を積極的に発信することで、スタッフのチャレンジ精神を育み管理技術の向上につなげます。

3 運営管理計画

(1) 都立公園の管理運営についての方針と具体的な取組

1) 地域団体などと連携した指定管理者としての管理運営の方針

これからの公園の管理運営は、2020年東京におけるオリンピック・パラリンピック開催、少子高齢化時代への突入、増加する大規模災害など、**環境の変化や新たな時代のニーズに応じて柔軟に取り組んでいく**必要があります。また都市公園法等の改正、SDGs達成への取組みなど、**公園を取り巻く社会情勢を敏感にキャッチし、管理運営に反映させる仕組みも必要**です。そこで以下の**3つの視点で、人・自然・まちが元気になる公園づくりを推進**していきます。

- 公園ポテンシャルを徹底的に分析し、**公園のオリジナリティを明確**にします。
- 地域の企業や自治体、学校、市民団体等との協働**によりプロジェクトを具現化します。
- 事業の評価・公開**を行い、改善対応することによって**公園や地域の価値を高め**ます。



さらに
人・自然・まちが
元気になる
取り組みへ

2) 環境の変化や新たなニーズに応えるための手法

環境の変化や新たなニーズに応える的確なプログラムを実施するため、下記の5つのステップに基づき進めます。



3) 環境の変化や新たなニーズに応えるための具体的な取り組み

平成 23 年度から「武蔵野の公園」グループの指定管理者として、STEP 1～5 を進めてきました。各公園のポテンシャル分析、オリジナリティをふまえ、今後も下記のプロジェクトなどに重点的に取り組みます。

武蔵野公園

「はけの魅力をもっと多くの人に伝えたい！」

公園北側にある“はけ（国分寺崖線）”の魅力を伝えるために、地元の若手ものづくり家たちと協働で開催している「**はけの美しい朝市**」を継続発展します。公園のシンボルくじら山や原っぱでゆったりのおんびりしたい！という来園者ニーズに、**おしゃれな空間演出**で応えることで、**新たなまちの魅力**を育みます。（自主事業開催）（協力：はけの美しい朝市実行委員会、小金井市観光協会等）



浅間山公園

「全国唯一のムサシノキスゲの自生地を次世代に残したい！」

地元市民団体、小中高の学校や大学、企業などとの協働推進により**年間約1,800人**が**保全活動**に参加し、懇談会で実践的な計画づくりと管理を行った結果を「**保安全管理ガイドライン**」に**まとめ冊子化**。これを基に、**協働型雑木林保全モデルを確立、展開**します。（協力：浅間山自然保護会、府中野鳥クラブ、浅間山ウォーキングクラブ、東京農工大植生管理学研究室、府中市環境政策課、府中市立若松小学校、府中市浅間中学校、都立府中工業高等学校、日本電気(株)、㈱東芝等）



野川公園

「自然観察センターをもっと学びの拠点にしたい！」

来館者のニーズを捉えつつ、学びの場としてより充実した展示や、プログラムのリニューアルを図ります。また、国立公園ビジターセンター勤務経験者やデザイナー経験者を中心として**プロジェクトチームを立ち上げ**、自然観察センター建て替えに向け**ビジターセンター機能を強化**します。



狭山・境緑道

「市民と共に魅力あふれる緑道づくりを確立させたい！」

住宅や店舗が面している緑道では、緑道内でガーデニング活動を希望する住民が多いため、**ガーデンパートナー制度を策定**しました。今後はこの運用を通して、市民と共に魅力あふれる緑道づくりを継続します。（協力：西東京・狭山境緑道花の会、小平グリーンロード推進協議会、緑道沿いの住民等）



玉川上水緑道

「緑道管理のガイドラインがほしい！」

当緑道は水と緑の骨格軸を形成しており、国の史跡にも指定される歴史文化の豊かな場所ですが、**樹木は老木化**しており、緑道沿いの住宅や通行人への**安全対策**が急務です。そのため関係機関や市民団体等と**管理ガイドラインを新たに作成**し、より適切な緑道管理につなげます。（協力：小平方式参加団体等）



武蔵国分寺公園

「遊具がなくても、子供たちを自然の中でのびのび遊ばせたい！」

大好評を得ているプレーパーク主催団体と連携した**自然の中で思う存分遊べる子ども向けイベント**を継続します。さらにまちづくりに積極的な子育て層とともに「**あったらいいなをみんなでつくる公園プロジェクト**」を推進し、親子が安心して遊べるハード管理と様々なソフトメニューの開発を継続します。（一部、自主事業開催）（協力：NPO 法人冒険遊び場の会、保育園/幼稚園等）



六仙公園

「地場作物文化と地域の繋がりを復活させたい！」

地場作物「柳久保小麦」をテーマとした市民企画のイベントを、公園と共同開催にすることで、地域の一大イベントに発展。地場作物である柳久保小麦の周知と共に、小学校跡地である公園立地を活かし、**地域のつながりを再構築**しています。（協力：Higashikurume 麦、六仙公園花ボランティア、六仙公園友の会等）



東伏見公園

「衛星公園で利用者のマナーアップを図りたい！」

整備途上である当公園では、利用マナーに課題があるため、自治体との連携により**犬のマナーアップキャンペーン**を実施してきました。今後連携を強化し、衛星公園でも**みんなで見守る安心安全な公園づくり**を推進します。（自主事業開催）（協力：西東京市みどり公園課、社会動物環境整備協会、はぴーてるず等）

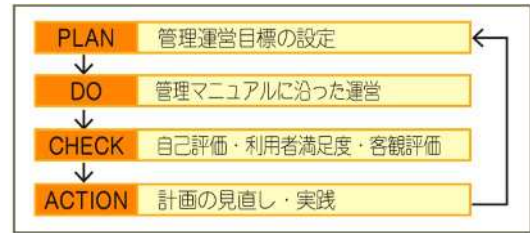


* ニーズの変化によって、新たなプロジェクトを企画、実施していきます。

(2) 利用者要望の把握方法と管理業務への反映方法

1) 基本的な考え方

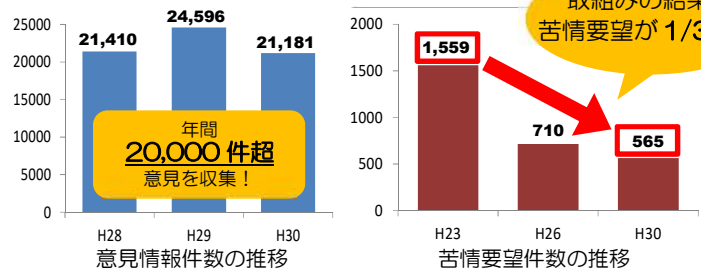
指定管理者は公平・平等に利用者の声を把握し、業務に反映する義務があります。私たちは、これまで右図のPDCA マネジメントサイクルに基づき、利用者の声を的確に把握し、業務に反映することにより、公園の質を向上させてきました。今後も継続的に利用者の意見を把握し、業務に反映することでさらに利用者の信頼と満足度を向上していきます。



PDCA マネジメントサイクルの考え方

【武蔵野の公園グループでのこれまでの取組み・成果】

- ・利用者から年間 20,000 件を超える意見を収集し、意見情報をデータベース化しています。意見情報を問合せ、苦情、要望、感謝等に分類し、毎月・四半期・1年ごとに分析、報告しています。
- ・苦情・要望は詳細な分析を実施し、問題・課題の早期対応に取り組んでいます。その結果、平成 23 年～平成 30 年の間に苦情要望数が 1/3 に減少しました。



2) 利用者要望の反映と仕組み

1 意見の把握

私たちは利用者からの意見を様々な手段によって幅広く収集します。

管理事務所での把握

- ・電話対応
- ・来館対応
- ・手紙
- ・ご意見箱
- ・HP 問合せフォーム など

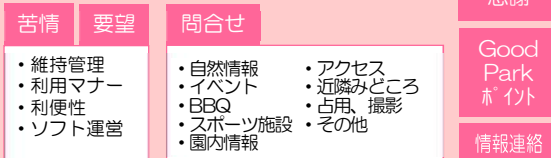
園内での把握

- ・ボランティアからの意見情報
- ・レンジャーの巡回
- ・利用者満足度調査
- ・パークモニターシステム
- ・懇談会
- ・協議会
- ・イベントアンケート など

2 PDCA 部による分類

日常的な利用者からの意見は、苦情、要望、感謝、Good Park ポイント、問合せ、情報連絡の 6 つに分類します。内容を分析するために、公園の特性に合わせて類型化し、データベースを作成します。

意見情報の分類



※Good Park ポイント・・・公園の施設や自然環境などへのお褒めの言葉

公園特性に合わせて類型

3 意見への対応

安全に関する情報や苦情などは、迅速に現場や状況を確認し、**緊急性の高いものはその場で対応**します。その他の動植物の保護・保全、施設整備に関する要望や、利用者ニーズの分析による対応などについては、現場職員・本部・東京都 関係機関等と話し合い、**調整しながら対応方法を検討**し、各部署で対応します。3カ月毎に対応状況の進捗を確認し、**お客様未対応ゼロを徹底**します。

4-① 対応の報告・公開

1ヶ月ごとに意見の傾向や苦情・要望の対応状況、検討課題をまとめ、東京都に報告します。利用者へは早急に対応方法を返答する他、サービスセンター内の意見情報ボード等で公開します。また公園の取組みや意見情報の傾向については**年度毎に「管理運営概要」を発行**し公園の取組みについて報告します。



年度ごとの管理運営概要(例)

4-② 対応のマニュアル化

利用者からの苦情・要望の発生から対応までの流れを正確に記録、**スタッフ間で情報共有を徹底**することにより、苦情・要望の再発防止に努めます。

また同様の問題が発生した場合に全スタッフが円滑に対応できるよう**対応方法をマニュアル化**します。

利用者の信頼・満足度アップ!

公園の管理品質の向上!

お客様対応の向上

3) 苦情要望への対応方法

全ての利用者に対して、**誠実で平等な対応**を行います。基本的には、**①相手の意見をよく聞き事実を確認する、②よく話し合う、③公園の運営に反映する（必要に応じて広く意見交換を実施）**の3つの手順によって対応します。

意見の内、特に“苦情”については、**「公園を改善する良い機会」**であると捉え、相手の話をよく聞いた上で、**公園の理念や方針をわかりやすく説明し、相互理解を進めます。**合意が得られない場合は、様々な人との意見交換により、解決策を検討していきます。

4) 利用者要望の反映の事例

事例① 遊具設置要望について（武蔵国分寺公園）

子育て層の利用が非常に多い公園で、**「遊具を設置してほしい」**といった要望に対して、**「遊具はいらない」「自然の中で子どもを遊ばせたい」**という、相反する要望がある場合

【これまでの取組み】

- ・子育て支援団体、保育園／幼稚園、自治体（子育て支援課）と**懇談会を開催**し、今後の取組みについての意見交換を実施
- ・ハード整備が必要なものは、緊急対応経費等で計画し実施
- ・ハード整備をしない取組みとして、新たな子育て世代向けイベントの開催や**遊具レンタル**を実施

【成果】

- ・**子育て世代向けイベントの参加者数UP！**
- ・子育て支援団体等との連携強化により、イベントの質が向上！
- ・公園がパパ&ママの交流の場に！

【今後の取組み】

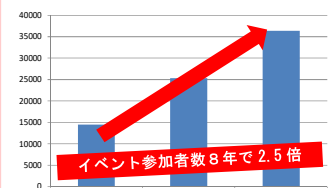
- ・懇談会の意見を反映し、**自然を活かした遊び場やばったランドの拡充などのハード整備、これを継続する。**
- ・絵本イベントなど子育て世代向けイベントを、関連団体や隣接する**都立図書館などと連携**し開催する。



子育て世代との懇談会を開催
（武蔵国分寺公園）



遊具レンタルの様子
（武蔵国分寺公園）



イベント参加者数8年で2.5倍
子育て世代向けイベント来場者数
（武蔵国分寺公園）

事例② 地域コミュニティの核として防災イベントの開催 （六仙公園）

「地域コミュニティを復活させるイベントを行いたい！」といった要望があった場合

【これまでの取組み】

- ・自治会や公園ボランティア等と共に防災をテーマに懇談会を開催。**「地域防災力の育成」**がテーマに挙げられている。
- ・小学校跡地にできた当公園では、その小学校の卒業生の発案が元となり、地域のつながりを再構築するために「防災」と「コミュニティ」をテーマに、実行委員会を結成。防災イベントを開催した。

【成果】

- ・基礎的自治体（東久留米市防災防犯課）、消防署、青年会議所、公園ボランティアなど、地域のステークホルダーを繋ぎ、防災イベントを開催。**コミュニティの核として、地域防災力の向上**に貢献した。

【今後の取組み】

- ・年々増える自然災害に備え、**地域防災力の更なる強化**を図る。
- ・**地域連携の輪を広げ**、賛同者・企業を拡大。



地域の多様な主体が
参加する実行委員会



防災フェスタ
（六仙公園）



地域防災力の向上にも貢献

(3) 質の高いサービスを提供するための具体的な取組

1) 基本的な考え方

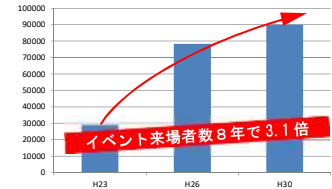
公園特性と地域特性を最大限に活用し、多様な利用ニーズごとにオリジナリティあふれるプログラムを展開することで利用促進につなげます。合わせて、これまでに構築した広報連携を活かし、効果的なメディアミックスにより公園情報をタイムリーに発信します。

また、常駐パークコーディネーターがボランティア機会の創出をするとともに、多様な主体との協働を積極的に進め、公園管理者だけでは実現できない質の高いサービスの提供を継続します。

2) 利用促進のための取組み

① 多様なニーズに応える明確なターゲティングプログラムの開発

「むさしのライフスタイル」を豊かにする、**4つのターゲティングプログラム**を展開、オリジナリティあふれる充実のプログラムを継続します。



KIDS

「週末は親子で遊びたい！」

子育て世代のニーズを企画化！
パパ&ママ応援 キッズプログラム

- ・あそぶの森@武蔵国分寺
発見と驚き満載の自然と遊ぶ親子プログラム
- ・キッズレンジャースクール@野川
レンジャーのお仕事体験プログラム
- ・季節を楽しむイベント@武蔵野、野川、武蔵国分寺
- ・キッズスポーツ教室各種@全公園 etc

「身近な自然をもっと知りたい！」

パークレンジャーがいざなう
武蔵野の自然堪能ネイチャープログラム

- ・レンジャープログラム@全公園
名物レンジャーが公園の魅力を紹介！
- ・キノコ100本ノック！@浅間山
初心者から上級者まで楽しめる各種プログラム
- ・レンジャーミニ図鑑 24種・年間5万枚配布@全公園

NATURE

SPORTS

「楽しく健康に・美しくなりたい！」

人気スポーツコーディネーターによる
年間150本を超える多様なプログラム！

- ・健康度チェック！体組成測定会
- ・楽しく美しく！パークヨガ
- ・ダイエットに効く！ノルディックウォーキング
- ・公園で健康になろう！健康遊具教室 etc
- ※全公園にて各公園特性に合わせて定期開催！

実績と
専門性は
おまかせを！

「武蔵野のことをもっと知りたい！」

パークコーディネーターがつなぐ！
武蔵野大好き！暮らしと文化プログラム

- ・むさしのカレッジ@野川
暮らしと自然をつなぐ各種講座開催
- ・ぶんぶんウォーク@武蔵国分寺
まちの魅力発見！まち歩きピクニックイベント
- ・文学に登場した自然を巡るガイドウォークの実施@武蔵野
- ・むさしの発見スタンプラリー@野川

CULTURE

②効果的な情報発信

■発信目的に合わせた多様な広報ツールの活用

公園施設やマナー・ルール等の基礎情報や花の見頃、緊急災害情報等の最新情報のほか、ユニバーサル情報、健康づくり、自然、歴史などさまざまな情報を、多様な広報ツールにより発信します。

「正確&わかりやすい」
基礎情報の発信

- ・公園パンフレット
- ・公式ホームページ
- ・ルール掲示板
- ・防災パンフレット等



「だれでも安心・快適」
ユニバーサル情報の発信

- ・多言語パンフレット
- ・多言語版サイン
- ・点字案内
- ・ユニバーサル施設ガイド等



「公園で運動・健康づくり」
ヘルシーパーク情報の発信

- ・スポーツイベントカレンダー
- ・スポーツセルフガイドシート
- ・スポーツコーディネーターの現地アドバイス等



「公園の“今”がわかる」
タイムリーな情報発信

- ・現地スタッフ案内
- ・タブレットガイド
- ・緊急災害時案内
- ・ブログ、Instagram
- ・Facebook 等



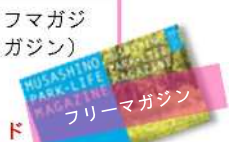
「公園で自然を満喫」
自然・生きもの情報の発信

- ・レンジャーミニ図鑑
- ・むさしの生きもの図鑑
- ・自然情報ボード
- ・パークレンジャーの現地案内等



「公園・武蔵野地域を好きになる」
魅力的な地域情報の発信

- ・むさしのパークライフマガジン（公園のフリーマガジン）
- ・公園・まちガイドマップ
- ・ちびっこ遊び方ガイド



■ターゲティングに合わせた効果的なメディアミックス

これまでの広報実績に基づき、西武鉄道を中心とした公共交通機関（鉄道・バス）、地域誌等のローカルメディア、自治体広報、TV・雑誌等のマスメディアとの広報連携を活用した情報発信を継続します。効果的にメディアを組み合わせることでテーマやターゲットに合わせた情報発信力を最大化します。



■外国人向けの広報連携やメディアの拡充

オリンピック・パラリンピックを機に外国人をターゲットにホテルや旅行会社との広報・イベントの連携や外国人向けメディアをさらに拡充し、世界に向けて都立公園や武蔵野地域の魅力を発信します。

【取組み】

- ①各種インバウンドの対応
- ②外国人記者クラブの活用
- ③外国人向けメディア活用



3) サービス水準向上のための取組み

① パークコーディネーター常駐の強みを活かしたボランティア機会の創出

一般来園者、各種学校、企業、市民団体、福祉関係団体、外国人など、多様な主体のボランティアニーズを専門知識を持ったパークコーディネーターが受け止め、コーディネートします。それにより、公園でのボランティア活動が社会貢献や生きがいの醸成、コミュニティ形成につながるなど、ボランティア文化を育み、ボランティアとの協働による公園のおもてなし力を高めます。



昆虫・植物・野鳥などの専門知識豊かなボランティアと連携し、

→ **野川公園自然観察センターの季節の展示を充実します。また夏休みの企画展やイベントの共同開催により、利用者の裾野を拡大します。**

近隣住民や学校等と連携したゴミ拾い活動では、

→ **携帯アプリを使って、ゴミの量を見える化します。緑道のポイ捨て禁止PRを実施し、緑道環境の快適性を向上させます。** 協力：㈱ピリカ

気軽にボランティアに参加できる「ちょいボラ」の開催により、

→ **外来種の駆除や花壇手入れなど多種多様な作業などを実施！ニーズに合わせて参加できる仕組みも用意！**
協力：ロックコープス、greenworks 等

② ボランティアのニーズに合わせたスキルアップ機会の提供

ボランティアを対象とした安全管理講習やAED講習、スキルアップのための連続講座などを継続実施し、これにより、専門知識や技術が向上、一般来園者へのガイド等にも活かします。

③ 市民の提案を実現！「あったらいいなをみんなでつくる公園プロジェクト」

地域市民が公園をフィールドに「やりたい」と企画したイベントをパークコーディネーターが実現のお手伝いをする『あったらいいなをみんなでつくる公園プロジェクト』を各種継続、公園管理者だけでは実現できない質の高い各種プログラムを**市民のボランティアな力により実現**します。



④ すべての利用者が心地よく公園を使えるマナー向上のためのキャンペーン

利用者のマナーアップがすべての利用者の快適な公園利用に繋がる**犬のノーリードや野鳥観察などのマナー向上を目的としたキャンペーン**をパートナーズ3グループの17の公園で実施、これを継続することで利用者の満足度の向上を図ります。



⑤ 「武蔵野おもてなし基準」によるサービスの向上

「ホスピタリティ」「ユニバーサルサービス」「アメニティ」の3つの視点から**オリジナルのサービス基準**を設定、公園スタッフの**接客意識や、公園の管理品質**を高めており、これを継続します。また利用者満足度調査等による第三者評価を分析し、サービス基準を随時見直すことで継続的なサービスの向上を実現します。

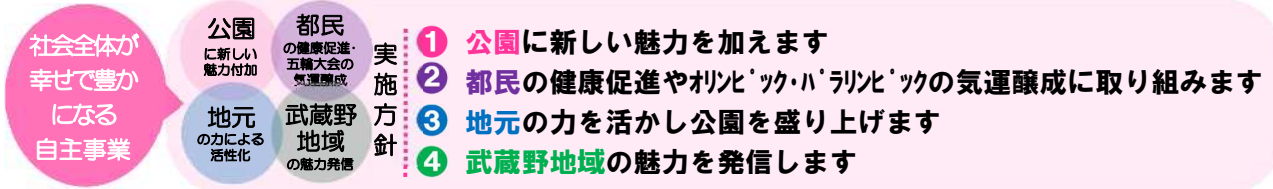
武蔵野おもてなし基準	ユニバーサルサービス	ホスピタリティ	アメニティ
	<ul style="list-style-type: none"> ○筆談サービス ○車いす貸出 ○ママ&パパいつでも安心サービス ○タブレットによる情報発信 ○ユニバーサル情報の発信 ○多言語版パンフレット等 	<ul style="list-style-type: none"> ○モーニングスマイルチェック ○親しみ五大用語 ○+1 トークコミュニケーション ○ホスピタリティウィーク ○週末おもてなし情報の発信等 	<ul style="list-style-type: none"> ○365日トイレ清掃 ○ウェルカムガーデン ○タウン情報コーナー ○パークアメニティセット貸出 ○WiFiの設置 ○利用者参加型アメニティチェック



(4) 公園の魅力向上と利用促進を図るための自主事業等の提案

1) 自主事業の実施方針

私たちは平成23年度より当公園グループにおいて、公園ニーズに基づいた自主事業を実施し、公園を拠点とした新しいライフスタイルの発信、利用者満足度・利便性の向上に貢献してきました。今後も東京都と協議の上、ニーズに基づいた自主事業を展開するとともに、下記方針に基づきながら、公園利用者だけでなく地元や武蔵野地域など、社会全体が幸せで豊かになる自主事業を重点的に展開します。また、公金事故の再発防止策として構築した公金帳票作成システム、利用者の意見や施設状況等の情報を集約し、データベース化するためのパークモニタリングアプリなどの業務支援システムを独自開発し、公園利用者の利便や安全に還元します。



2) 具体的な取り組み提案

●実施公園凡例: 野:野川公園 武:武蔵野公園 国:武蔵国分寺公園 浅:浅間山公園 六:六仙公園
東:東伏見公園 玉:玉川上水緑道 狭:狭山・境緑道 全:全公園

新規事業

各提案は、利用者の安全性や公平性への配慮、自主事業としての実現可否などについて、東京都と十分に協議した上で実施します。

1 公園に新しい魅力を加えるプログラム

公園ニーズに基づき、「便利!」「おいしい!」「たのしい!」など、既存の公園にはない新しい魅力を加える事業を継続展開します。

事業名	内容	期待できる効果	実施公園
手ぶらでBBQ	利用者ニーズに応え、ゴミの有料回収やバーベキュー機材レンタル、食材提供などのサービスを実施(事前予約制)	・利便性・満足度の向上	野・武
おしごとヤギさんふれあい事業	草を食べるヤギとふれあい、利用者への癒しを提供	・利用促進 ・子供の情操教育向上	武
みどりの中で! フォトウェディング	公園のみどりを活かして一生の記念に残るフォトウェディングを実施	・利用促進 ・文化・芸術の普及啓発	野
アートプロジェクト	公開制作するアーティスト誘致によるアーティストラボ	・利用促進 ・文化・芸術の普及啓発	国
サバイバルプログラム	災害時に「生き抜く」ためのノウハウを伝えるプログラム	・防災意識・ノウハウの向上	野・武・東
むさしのヘルシーパークショップ	イベント時等に限定開催する公園で使用できるスポーツ・エクササイズ用品等の販売ショップ	・健康促進 ・利便性・満足度の向上	野・武・国 六・東
むさしのマルシェ	ケータリングカーや地元飲食店の出店など、園地を利用した物販やカフェの実施	・利用促進 ・地域振興 ・利便性・満足度の向上	野・武 国・六
サイクルシェアサービスポート設置	Suica等、どこのポートでも自転車のレンタル・返却ができるサイクルシェアシステムのサービスポートをイベント時に設置	・利用促進 ・健康増進 ・利便性・満足度の向上	野・武
遊具レンタル	公園で遊ぶための遊具を、管理所で貸出	・子供の利用促進 ・利便性・満足度の向上	国



手ぶら BBQ サービス (千葉県立幕張海浜公園)



ヤギによる除草イベント (国営東京臨海防災広域公園)



イベント時のサイクル仮設ポート(野川公園)

2 都民の健康促進とオリンピック・パラリンピックの気運醸成に取り組むプログラム

健康な体づくりをサポートするヘルシーパークプロジェクトやオリンピック・パラリンピックに向けて気運を盛り上げる事業を継続展開します。※詳細は3(5)参照

事業名	内容	期待できる効果	実施公園
世界記録リアル体感イベント	・世界記録が体感できる仕掛けを園内に設置し来園者がその偉大さを体感できるプログラム ・ミズノが開発した「ヘキサスロン」を使った各種スポーツが簡単に楽しめるプログラム、子ども体力測定他	・目標見える化による運動モチベーション向上 ・スポーツ人口拡大 ・健康促進 ・オリンピック気運醸成	野・武・国 六・東
障がい者スポーツ普及プログラム	ブラインドサッカー(日本ブラインドサッカー協会連携)、ポッチャ(国分寺市連携)など、障がい者スポーツ普及のためのプログラム等	・障がい者スポーツ人口の拡大・認知 ・バリアフリーチェックの進展とハード整備	野・武・国
アスリートピクトリークリニック	各種スポーツのトップアスリートが子どもに直接コーチするプログラム	・運動モチベーション向上 ・スポーツ人口拡大	野・国



ヘキサスロン (野川公園)



大人のウォーキング教室 (武蔵国分寺公園)

年間で約150本超実施!

<p>キッズ&親子スポーツプログラム</p>	<p>キッズや親子と一緒に楽しめるスポーツプログラム</p> <ul style="list-style-type: none"> ・キッズ&ジュニア走り方教室 ・はらっぱスポーツ教室 ・親子スポーツ教室 等 	<ul style="list-style-type: none"> ・健康促進 ・子育て世代利用促進 ・施設稼働率の促進 ・スポーツに親しむ機会創出 	<p>野・武・国 六・東</p>
<p>パークフィットネス</p>	<p>パークヨガやバランスボールを使ったストレッチなど主に若年層を対象としたプログラム</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・健康促進 ・若年層の利用促進 	<p>国</p>
<p>健康づくりアクティブシニアプログラム</p>	<p>大人(主に高齢者)向けの健康づくりスポーツプログラム(ウォーキング・ノルディックウォーキング教室・健康遊具教室等)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・健康促進 ・高齢者等の利用促進 ・スポーツに親しむ機会創出 	<p>野・武・国 六・東・玉 狭</p>
<p>からだ測定プログラム</p>	<p>身体測定等を実施しスポーツコーディネーターによるアドバイスが聞ける健康づくりプログラム(足型測定会・体組成測定会 等)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・健康促進 ・スポーツに親しむ機会創出 	<p>野・武・国</p>
<p>ネイチャーチャンピオン</p>	<p>「トンボと人間どっちが速い?」「金・銀・銅メダル色の昆虫・植物を探せ!」など自然の理解を深めながら楽しめるプログラム</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自然環境への理解促進 ・オリンピック気運醸成 	<p>野・浅</p>
<p>パブリックビューイング</p>	<p>映像装置を設置しオリンピック・パラリンピック等を観戦できるイベント実施</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・オリンピック気運醸成 ・地域振興 	<p>野</p>



キッズ&ジュニア走り方教室(東伏見公園)



足型測定会(武蔵国分寺公園)

3 地元の力を活かし公園を盛り上げるプログラム

公園が地域振興・活性化の拠点となるよう、地元の自治体や企業、関連団体(農業・商業・観光他)等との連携により、公園を盛り上げる事業を継続展開します。

事業名	内容	期待できる効果	実施公園
あったらいいなプロジェクト企画化	地域市民からの企画提案の実現	・利用促進 ・利便性・満足度の向上	野・武・国 六
はけのおいしい朝市	地域団体と一緒に朝市を開催 ※あったらいいなプロジェクトの企画化	・地域振興 ・武蔵野地域の魅力発見	武
てのわ市	地元作家の作品や、カフェなどの出店によるイベントを実施 ※あったらいいなプロジェクトの企画化	・地域振興 ・利便性・満足度の向上	国
ぶんぶんウォーク	パークカフェや地元団体と連携したプログラム、物販などを実施 ※あったらいいなプロジェクトの企画化	・地域振興 ・利便性・満足度の向上	国
地元自治体連携スポーツキャンペーン	市のスポーツ振興課と連携し、スポーツキャンペーン等を開催	・地域振興 ・スポーツ振興	国
ウォーキングイベント	西武鉄道などと連携し、駅から公園や周辺施設をまわるウォーキングイベントを実施	・健康促進 ・地域の魅力発見	玉・狭
新技術などの社会実験等受け入れ	自然観察やSDGs(持続可能な開発目標)に関連する社会実験・実証実験・事業協力 等	・地域振興 ・利便性・満足度の向上	全



はけのおいしい朝市(武蔵野公園)



てのわ市(武蔵国分寺公園)

4 武蔵野地域の魅力発信プログラム

公園や武蔵野地域の魅力(動植物・歴史・文化など)を広域的に発信する事業を継続展開します。

事業名	内容	期待できる効果	実施公園
むさしのカレッジ	自然観察センターを拠点に武蔵野の自然や文化を学ぶカレッジ運営	・環境・歴史・文化の普及啓発 ・武蔵野の魅力発見	野・武・浅
はけの自然とくらしフォーラム	はけ(崖線)の自然とくらしについて、関係団体等と連携、みんなで考えるフォーラムを開催	・はけの環境・歴史・文化の普及啓発、はけに関わる人たちの連携促進	野・武・国
むさしのパークライフマガジン	公園の多様な過ごし方を「パークライフ」として提案・発信するフリーマガジンの作成配布	・公園の魅力発見	全
レンジャーミニ図鑑(日本語版/英語版)	季節に応じた公園の自然・動植物を楽しむためのセルフガイドシートの発行と電子化	・環境・歴史・文化の普及啓発	全
むさしの生き物図鑑	武蔵野エリアで見ることができる昆虫・鳥・動物などの生き物図鑑をレンジャーミニ図鑑と合せて電子化	・公園の魅力発見	全
学校の環境教育支援ガイドブック	地域の学校の環境教育等で、公園の自然環境を活用するためのガイドブックを作成	・公園・地域の魅力伝達	全
自然観察センターリニューアル	プロジェクトチームによる観察センターの展示や普及啓発プログラムの開発	・環境・歴史・文化の普及啓発 ・利用促進	野
公園オリジナルグッズ製作	各公園の特徴を活かしたオリジナルグッズの製作	・公園の魅力伝達	野・武・国 浅
公園まちガイドマップ	公園周辺の自然環境や地域の歴史、ショップなどを紹介した散策マップを作成	・武蔵野の魅力発見 ・利便性・満足度の向上	全



むさしのカレッジ(野川公園)



むさしのパークライフマガジン(武蔵野の公園グループ)

3) 資金調達から収益還元の流れ

右図の通り、自主事業実施のための資金は、自動販売機収入やイベント参加費などによって調達します。また、それら収益については、イベント実施費やチラシ印刷費、ボランティア活動費等、公園の魅力づくりのために還元します。

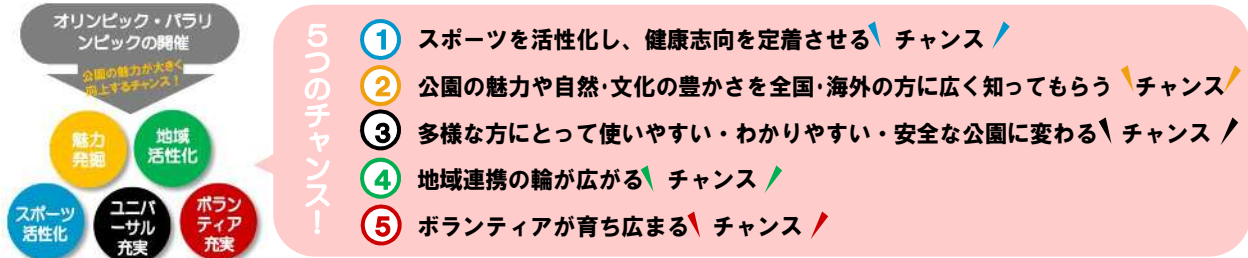


(5) オリンピック・パラリンピック後も見据えた公園の魅力向上の取組

1) オリンピック・パラリンピックの影響のとらえ方

東京都は、オリンピック・パラリンピックの開催を契機に、世界都市としてふさわしい都市基盤に改造し、世界中から集まる多くの方々をおもてなしする機会を得ます。同様に、公園にとっても当大会の開催は、魅力や価値を向上させる重要な機会となります。

私たちはオリンピック・パラリンピックの開催は、「5つのチャンス！」であるととらえ、開催後も見据えた公園の魅力向上の取り組みを展開し、有形・無形のレガシーを後世に残します。



2) 具体的な取り組み

●実施公園凡例: 野:野川公園 武:武蔵野公園 国:武蔵国分寺公園 浅:浅間山公園 六六:六六仙公園
東:東伏見公園 玉:玉川上水緑道 狭:狭山・境緑道 全:全公園

前項の「5つのチャンス！」を受けた公園の魅力向上のための方向性と、具体的な取り組みは以下の通りです。

① スポーツを活性化し、健康志向を定着させる チャンス

取組の方向性

「ヘルシーパークプロジェクト！」

「きっかけづくり」と「継続したくなる仕組みづくり」によるスポーツ人口拡大・定着

- その1. オリンピック・パラリンピック選手や世界記録のスゴさを体感できる仕掛けをつくります。
- その2. 運動が苦手な人でも簡単に始められるメニューを導入します。
- その3. 年間通じて参加できる「連続プログラム」を対象ごとに提供します。
- その4. 運動のモチベーションが向上するような仕組みをつくります。

スポーツ人口の拡大・定着

その1. 世界記録のスゴさを体感できる仕掛け

スポーツを始めるきっかけづくりとして大切なのは「すごい挑戦したい!」と感じさせることです。そこで私たちは、トップアスリートの等身大アートや世界記録(飛距離・ジャンプ高さ・重量等)を園内施設や樹木などを活用して設置し、多くの人が世界レベルの目標に向かって**挑戦する気持ち**が芽生えるような仕掛けをつくります。

世界記録体感の仕掛け例
→ 棒高跳び世界記録
「世界記録ってすごい!」

その2. 運動を簡単に始められるメニューの導入

1985年頃をピークに子どもの運動能力は著しく低下傾向が続いています。そこで私たちは、運動が苦手な人でも楽しく遊び感覚で、**走る、跳ぶ、投げる**など基本的な動作が身につけられる「**運動遊びメニュー**」や、オリンピック・パラリンピック競技種目を模したゲーム等プログラムを導入し、健康者だけでなく障がい者も簡単に運動を始められるきっかけをつくります。

具体的な取組み

- ・世界記録リアル体感イベント
- ・障がい者スポーツ普及プログラム
- ・アスリートビクトリークリニック 他 ※3(4)自主事業参照

運動遊びメニュー例
「エアロケット」で投げる力を引き出す

その3. 連続プログラムの提供

スポーツや健康づくりを定着させるために、単発のイベントだけでなく、多様な対象ごとに年間通じて運動ができる連続プログラムを提供します。

【対象区分の例】

キッズ&親子 走り方教室	フィットネス パークヨガ	シニア 初めてのフォーキング
--------------------------------	----------------------------	------------------------------

具体的な取組み

- ・キッズ&親子スポーツプログラム
- ・健康づくりアクティブシニアプログラム
- ・パークフィットネス 他 ※3(4)自主事業参照

その4. モチベーション向上の仕組み

継続のためには各段階での「達成感」が必要です。そこで、「成果の見える化」を多様な側面から実施することで、次のプログラム実践に向けたモチベーションを向上させ、継続を促します。

【具体的仕組み】

- A. 運動能力の見える化: タイム、距離などの記録・グラフ化
- B. 健康状態の見える化: 筋肉量、骨密度などの測定
※3(4)自主事業「からだ測定プログラム」参照 (BEFORE-AFTER 診断)
- C. メダル獲得に向けたグレード(級)設定: 金・銀・銅など
- D. スタンプやシールがたまる参加カード発行 他
※上記A「運動能力の見える化」とその2「運動遊びメニュー」を組合せたプログラムがミズノ㈱で開発された「**ヘキサスロン**」です。当公園グループでも豊富な実績があります。

能力測定 → 実践 → 能力測定 → 実践 → 継続

② 公園の魅力や自然・文化の豊かさを全国・海外の方に広く知ってもらおう！チャンス！

取組の方向性

「魅力発掘プログラム」の実施と「魅力発信広報」の展開

- 広める・・・公園や地域、日本の自然・文化・歴史の魅力を伝える**魅力発掘プログラム**を実施、これを継続します。
- 広める・・・グループネットワーク(鉄道・バス等)と連携した広報や、外国人に効果的に伝わる媒体を使った**魅力発信広報**を継続展開します。



日本文化継承
ニッポン発見イベント

具体的な取組み	概要	実施公園
ニッポン発見イベント	桜・梅・富士山を愛でるツアーや相撲、空手等伝統競技や茶道等の日本文化を伝えるプログラムを実施	野・武
むさしのエコツーリズム	公園だけでなく地域の自然・文化・歴史の資源を活用した観光地づくりとして1DAYトリッププラン、産線ツアー等を実施	野・武・国・玉
外国語ガイドウォーク	英語/中国語等による自然・歴史・和の文化を伝えるプログラムを実施	野・武・国・玉
むさしの発見スタンプラリー	子供から大人まで楽しめるむさしの魅力発見スタンプラリー	野・武・国・浅
外国人に効果的に伝わる広報媒体などとの連携	オリンピック・パラリンピックを機に、外国人向けの広報媒体との連携やメディアの新規開拓、語学学校へのPR等を実施	全
公共交通機関との広報連携	西武鉄道をはじめとする公共交通機関との連携による地域・公園の情報発信	全

③ 誰にでも使いやすい・わかりやすい・安全な公園に変わる！チャンス！

取組の方向性

ユニバーサルデザインとしてのハードとソフトの充実

- ハード・・・バリアフリーへの改修やサイン板の多言語化など、**誰もが使いやすい施設へ改修**します。
- ソフト・・・各種マニュアルの改訂やスタッフ研修の充実により「おもてなし」の気持ちを伝えるサービス提供を継続します。

具体的な取組み	概要	実施公園
バリアフリー改修	障がい者団体等と連携し、使いにくい箇所をチェック。特に建物周りや入口付近等利用率の高い箇所を優先し、できる限り改修	全
サイン・広報物などの多言語表記、点字付加	サイン・広報物、レンジャーミニ図鑑などを多言語で表記(既存のものは改修)。案内板・解説板などは可能な限り点字も付加	全
距離表示の整備	ウォーキング等に役立つ距離表示を園内に整備	野・六
「武蔵野おもてなし基準」によるサービス提供	「ホスピタリティ」「ユニバーサルサービス」「アメニティ」の3つの視点からオリジナルサービス基準を設定。スタッフ全員が徹底して実践し来園者をおもてなし ※3(3)参照	野・武・国

④ 地域連携の輪が広がる！チャンス！

取組の方向性

オリンピック・パラリンピック気運醸成による地域活性・交流人口拡大

- オリンピック・パラリンピック開催気運を高めることによって、**連携の輪が広がるプログラム**を地域と連携して実施、これを継続します。



具体的な取組み	概要	実施公園
ワールドガーデン	都民との協働により、オリンピック・パラリンピックの気運醸成に資する花壇等を整備・育成	野・武・国・六・狭
ニッポン応援プロジェクト	地域の住民・学校等と連携したオリンピック・パラリンピックの気運を高める取り組み(カウントダウン設置、応援バナー設置等)	全
地元自治体連携スポーツキャンペーン	市のスポーツ振興課と連携し、スポーツキャンペーン等を開催(場所の提供、開催準備協力等)	国
パブリックビューイング	オリンピック・パラリンピックを来園者や地域の方と一緒に観戦 ※3(4)参照	野

⑤ ボランティアが育ち広まる！チャンス！

取組の方向性

ボランティア活動プログラム等の充実によるボランティアの活性化 ※3(3)参照

- 国内外の方が**気軽に参加できる**ボランティアプログラムの提供を継続します。
- 多様なボランティアの方が**活躍できる場**の提供を継続します。



具体的な取組み	概要	実施公園
ちよいボラ	国内や海外の方のボランティア活動の入り口として気軽に参加できるプログラムを実施 ※3(4)参照	野・武・国・浅・六・東
各種ボランティアの活躍の場の提供	社会福祉協議会、国際交流協会などと連携し、ガイドヘルパー、通訳ボランティアなどが活躍できる場として公園を提供 国際基督教大学からのインターンの受入れや、アメリカンスクールのボーイスカウト活動の受入れ等、様々な形態のボランティア活動も受入れ	野・武・国

4 施設維持管理計画

(1) 適切な維持管理を行うための取組

1) 維持管理の方針

私たちは、これまで各公園の施設や自然の特性及び利用特性を把握し、利用者に安全・安心で快適に過ごせる施設を提供してきました。今後もこれまで培ってきた維持管理ノウハウを活用するとともに、「**計画性**」「**確実性**」「**効率性**」をもって公園施設の基本的な機能を十分に発揮させる維持管理に取組みます。また公園に対する社会ニーズのさらなる多様化に対応するため、右の**5つの視点**で公園の価値を向上させる維持管理に取組みます。

計画性

①安全で安心して利用できる施設の提供

確実性

②アメニティ向上による快適で居心地のよい空間づくり

効率性

③美しく風格のある景観の保持

④生物多様性の向上

⑤資源循環・スマートエネルギーの活用

2) 具体的な取組み

①安全で安心して利用できる施設の提供

●施設や樹木点検の徹底による予防保全

日常巡回、定期点検やスタッフ全員によるパークスキャン、樹木医による木材腐朽菌の調査を行い、安全・安心に利用できる施設の提供を継続します（p44 参照）。

●パークモニタリングアプリ（バクモニアプリ）による即時対応

公園の巡回点検では、独自開発したスマートフォンを活用した**バクモニアプリ**を使用し、施設の不具合と位置情報を所管管理所と即時に共有、早期対応・是正に取組みます。また、動植物等の自然情報も合わせて収集、データベース化を図り、順応的管理にも活用します。IoTの活用で、情報共有が円滑になる他、履歴が記録されるなど、これまでの**管理運営ノウハウを盛り込んだ独自システム**を活用し、今後は**管理台帳やPDCA分析データベースに展開**します。



各種情報の入力画面

情報を帳票に出力

●参加型パークモニタリングシステムの継続

管理所のない公園では、公園ボランティアや地域住民に**パークモニター**として登録してもらい、施設の不具合、不法投棄などを発見した場合は管理所へ連絡いただく「参加型パークモニタリングシステム」も継続します。

●安全・安心に関わる会議の継続開催

- ・**安全大会**（年1回）：代表企業である西武造園株が7月の安全週間中に協力会社を一同に集めて開催する大会。大会前の6月に安全週間準備月間を設け安全作業の啓発を図ります。
- ・**安全会議**（年3回）：維持管理担当スタッフと協力会社を集め、安全に関する会議及び研修会。
- ・**維持管理ミーティング**（月1回）：維持管理計画の履行状況や日常の安全管理等の確認、課題の抽出と解決方法についての意見交換等を行い、維持管理の質の向上に取組むミーティング。



近隣保育園園長を招き
子どもの安全をテーマとした
安全会議を開催（野川公園）

●防犯カメラの設置

夜間、人が滞留する場所やイタズラ等の被害が多い場所に、東京都と協議し設置を推進します。

②アメニティ向上による快適で居心地のよい空間づくり

●誰もがいつでも気持ちよく利用できる公園施設の提供

- ・園内の日常清掃・定期清掃を行い、常に清潔感のある公園施設の提供を継続します。スタッフ一人ひとりが美化・清掃への意識を高めるよう、定期的にスタッフ全員で管理所周辺の一斉清掃を継続実施します。
- ・運動場の芝生等を効率的・効果的に管理するため、大型のスポーツトラクターを導入、グラウンドコンディションの向上による満足度の向上に努めます（武蔵野公園）。



大型のスポーツトラクター導入

●専門団体と連携したトイレの快適性向上

トイレの管理は日常の清掃に加え、専門会社による特別清掃を全公園で計画的に行います。また**（特非）日本トイレ研究所等**の協力によりトイレ診断を実施し、快適で利用しやすいトイレ環境を提供します。

●IT技術を用いたポイ捨てゴミ調査の実施

ポイ捨てゴミの多い2緑道では、協力団体である㈱ピリカと連携し、園内ゴミの量や内容を分析します。重点清掃地域、清掃ルートや頻度の最適化を行い、効率的な維持管理に活かします。

●園内サインのトータルデザイン化と清掃の徹底

園内サインは、公園全体の雰囲気を出し出す重要な施設として、デザインを統一化するとともに、清掃の徹底や交換により常に美しい状態に保ちます。

●市民参加型アメニティチェックの実施

公園施設の快適性向上のため、利用者によるアメニティチェックを行います（年1～2公園）。施設の使いやすさや居心地の良さなど、利用者目線での意見を公園管理に活かします。



利用者による公園評価
（海外NPOが開発した評価シートを活用）

③美しく風格のある景観の保持

●計画的な植栽・施設管理

- ・公園特性に合わせ、年間・月間維持管理計画を作成し計画的な維持管理作業を継続実施します。
- ・エリアごとの管理目標を定め、定期的な剪定や密度管理により樹木特性（花・落葉・果実など）を楽しめる管理を継続します。
- ・施設管理は計画的な補修・修繕・改修や予防保全により**施設の長寿命化**を図り、公園施設の劣化・老朽化を防ぎ美観を保ちます。

●ランドスケープパトロール

本部在籍の樹木医・技術士・一級造園施工管理技士が、公園スタッフと公園景観診断を行うパトロールを年2回行い、指摘事項に速やかに対応することで、東京の公園景観を高めます。

●公園特性を活かした景観づくり

各公園の特性を伸ばす維持管理を行い公園の魅力向上に取組み、これを継続します。

<野川公園 ～元ゴルフ場の芝生再生～> 野川公園は国際基督教大学のゴルフ場跡地を整備して開園しました。

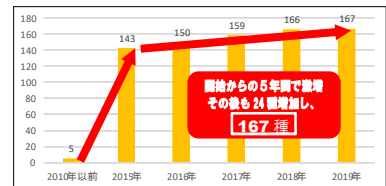
→長年の利用や利用者数の増により草地化が進んでいます。公園の由来の周知及び高質な芝地環境を提供するため芝地の再生を継続します。

<武蔵野公園 ～サクラの名所復活～> 武蔵野公園は以前からサクラの名所として都民に親しまれてきました。

→近年老木化が進み、腐朽菌による枯死が頻発しています。サクラ更新計画を作成し都の承認のもと、サクラの名所復活への取組を継続します。



美しい芝地を再生します。
(野川公園)



環境省・東京都レッドリスト掲載種確認数の推移

④生物多様性の向上

当グループには国分寺崖線や緑道、近隣水系とのネットワークを持つ公園があり「水とみどりの骨格軸」を形成する拠点となっています。これまでに私たちが成果をあげてきた以下の手法を継続発展し、生物多様性のさらなる向上に取組み継続します。

A 全公園全域のモニタリング調査

1. 生物調査 (植物、昆虫、野鳥、両爬、外来種など)
2. 環境調査 (光量、土壌温度など)
3. 文献・ヒアリング調査

全公園全域を定期的に巡回するパークレンジャーにより基礎情報を集め、特に重要なエリアに対し、専門チームによる集中調査を実施します。浅間山公園ではボランティア、大学との協働調査も実施します。

市民団体・大学との協働植物調査 (浅間山公園)

B 情報の集約と解析

集められた情報を各種データベースに整理。広域の貴重種保全計画等をバクモニアプリを活用して策定します。

1. バクモニアプリを活用した各種データベースの作成
 - 公園別生物確認データベース
 - 公園別貴重種、注目種データベース
 - 外来種データベース
 - 貴重種、注目種等 GPS データベース
2. GIS 管理計画図等の作成

公園別データベース・GISによる保全計画図

C 順応的維持管理の実践

エリア別に保全計画を策定し、生物多様性の保全と創出のための維持管理を実施します(年に1～2度更新)。

生物多様性に配慮した維持管理計画の策定

希少種位置、草刈時期等の注意点を記載した計画書を全公園で作成。

維持管理計画書 (浅間山公園)

生物多様性スポットの選定と管理

特に生物多様性のポテンシャルが高いエリアを選び、重点的な保全活動を実施。

- ①本来の生態系が維持されている箇所
- ②希少種がまとまって生息する箇所
- ③貴重な自然とのふれあいの場

フデリンドウ (武蔵野公園)の生物多様性スポット

外来種・病虫害防除

侵略的外来種の日常的な駆除のほか、協力団体である(特非)生態工房等との連携により防除計画を策定、実施。

特定外来生物クヒアカ ツヤカミキリの防除

重点的に行う取組

- ・生物多様性スポットの継続と追加 (東伏見公園を除く全公園)
※武蔵野の都立公園では、4年間で12公園20箇所を設置。今後8公園11箇所を継続し、5箇所以上を追加予定。
- ・国分寺崖線の雑木林及び湿地再生による武蔵野本来の植生を復活 (武蔵野・野川・武蔵国分寺)
- ・専門家と連携したバードサンクチュアリの再生 (浅間山・野川・武蔵国分寺)
- ・GISを用いたニホンアカガエル生息エリアの拡大 (武蔵野・野川)
- ・保全管理ガイドラインに沿った雑木林保全による、ムサシノキスゲ等の植生の回復 (浅間山)
- ・自然体験の場とするため、草の刈り残しによる「ばったランド」を設置 (武蔵国分寺・野川・六仙)

⑤資源循環・スマートエネルギーの活用

■リサイクルの推進

- ・東京都が推進する再生可能エネルギーの導入に協力します。
- ・植栽管理で発生した枝葉はチップ化・たい肥化を行い、公園管理に再利用します。
- ・清掃で収集したごみ・廃棄物は分別を徹底し可能な限り再資源化します。

■管理所や園内における省エネルギー対策の推進

- ・管理所内照明について省エネ効率の高いLEDへの更新を東京都と協議し進めます。
- ・野川公園サービスセンターの太陽光発電を来園者に周知し、再生可能エネルギーの利用拡大の啓発を継続します。

3) 緊急時に対応した施設維持管理

緊急時にも公園施設の機能を確保し、速やかに復旧するため、以下の取組みを継続します。

想定すべき緊急時

- 暴風、豪雨、竜巻、地震、洪水等自然災害による落枝、倒木、広場や園路の浸水、公園施設の損壊
- バンダリズムによるベンチやトイレ等の破壊
- オーバーユースによるトイレ等施設の利用不能

- 緊急車両が通行できる園路幅や高さの確保 (樹木管理)
- 防災関連施設の定期的な保守点検、動作確認
- 緊急資材の常備 (ブルーシート、カラーコーン、発電機、水中ポンプ、投光器など)
- 緊急時の重機・機材等は代表企業のネットワークにより確保
- 協力会社と災害復旧等に関する協定締結

(2) 事故、自然災害や感染症等を未然に防ぐための安全対策、発生時の対応

1) 安全対策・発生時の取組み方針 ～平常時からの点検・訓練・準備による円滑な対応～

私たちはこれまで、日常の安全点検をはじめ、巡回・防災訓練等といった安全管理・危機管理を徹底し、事故や自然災害、感染症等の未然防止に努めてきました。事故・災害発生時には、各種分野の協力団体（災害復旧に関する協定を締結）とともに、安全確保、被害の最小化に向けて全力で対応してきました。今後も引き続き、東京都・各自治体・警察・消防等との連携体制を一層強化し、利用者や周辺住民、ボランティア、公園スタッフの誰もが安全に安心してすごせる公園づくりを行います。

2) 事故を未然に防ぐための安全対策と発生時の対応

① 事故を未然に防ぐための安全対策

● 安全管理に関する継続教育と各種マニュアル・ガイドラインの徹底

- ・ 園内作業・気象災害時における安全管理マニュアル等、事故を教訓に強化、策定したマニュアル類の運用の徹底や事故事例の共有、事故予防ワークショップなどを実施する **安全会議** を継続開催します（年3回）



全スタッフ、委託業者も参加する安全会議

● 施設点検の徹底とパクモニアプリを活用した予防保全

- ・ **ハザードマップによる確認**：危険箇所・重点点検箇所を明記したハザードマップによるチェック（毎日）
- ・ **パークスキャン**：本部の専門スタッフと管理所の全スタッフによる安全・衛生パトロール、園内施設の徹底点検（年1回）
- ・ 落枝、倒木予防：「植栽管理マニュアル」に基づいた樹木点検（通路・見通し・照度確保・越境枝等）、腐朽のおそれのある樹木に対する樹木医による点検・診断
- ・ 公園施設全般の点検：「公園施設の安全点検に係る指針（案）（H27.4 国土交通省）」に基づく定期点検
- ・ 運動施設の点検：協力団体のミズノ(株)の運動施設管理ノウハウを活用し、安定的かつ高水準の品質を保持
- ・ 遊具の点検：指針に基づいたマニュアルのチェックリストによる目視点検（毎日）。触診・聴診・利用点検等の自主点検（2名以上、月1回）。遊具の構造や点検に関する専門的な知見、技能を有する専門技術者による点検（年2回）
- ・ **パクモニアプリを活用**：上記の各種点検等で発見した不具合などをパクモニアプリを使ってデータベースに蓄積、情報の一元管理による対応の迅速化や進捗状況の確認、また、蓄積データの解析による類似案件の予防保全に努めます。
- ・ **パークモニター制度の継続実施**：公園ボランティアなど市民モニターからの情報収集
- ・ **緑道管理ガイドライン**の作成・点検：ガイドライン（狭山・境、玉川上水）の作成と点検（エリアを分けて策定、随時運用開始）



パークスキャン（玉川上水緑道）

● 各関連機関との連携強化と情報共有の徹底

- ・ 東京都や地元自治体、警察や消防など各関連機関との連携強化と連絡体制の整備
- ・ 毎日の朝夕礼やむさしのミーティングにて、公園スタッフ間での園内施設の状態や事故に関する情報の共有

● 事故発生を想定しての備え

- ・ 安全管理マニュアル等に基づく訓練、新しい知見・経験に基づくマニュアルの継続的な改善
- ・ 消防署と連携した初期消火訓練、救急救命士による応急手当・AED講習の実施（全スタッフ）
- ・ レスキューザックの携行（事故・災害発生時の応急対応で必要になるテープ、ハサミ等を収納）
- ・ 反社会的勢力対応基本規程に基づく対応



資格を持つスタッフによる
応急手当講習
（武蔵国分寺公園）

● 特定日・夜間の事故への備え

- ・ 桜花期・繁忙期の多客時や夏期・年末年始の夜間等、必要に応じ警備会社等による巡回を実施
- ・ サマータイム等のタイムシフト勤務の導入により、炎天下での作業を回避する熱中症対策を実施
- ・ トイレや自動販売機等への破壊行為に対し、警察へのパトロール強化依頼や夜間巡回警備を強化
- ・ イベント時の臨時出店等における食品衛生管理については、保健所の指導のもとに徹底します

● テロ発生への備え

- ・ 大規模テロなどへの対応指針をまとめた「東京都国民保護計画」（平成27年3月変更）に基づき、東京都と連携した対応の実施
- ・ サイバーテロについてはセキュリティ対策として、個人情報、顧客情報等を保存しているサーバ・パソコンの状態を随時確認（ウイルスチェック等）
- ・ 本部による最新情報の発信や基礎知識、対策研修を実施し、全スタッフの情報管理意識向上に努めます

② 事故発生時の対応

項目	内容
1 負傷者の救助と事故発生現場の安全確保	<ul style="list-style-type: none"> ・ 現場確認（スタッフはレスキューザック、AED等の救命器具を携帯） ・ 負傷者が発生した場合は状態を確認し、救急要請・引継ぎ ・ 二次的な事故防止のため、事故発生現場の立入り禁止、使用禁止措置を実施
2 東京都への報告、本部、関係機関への連絡	<ul style="list-style-type: none"> ・ 負傷者の身元、連絡先を確認し、家族等に連絡・状況説明 ・ 現場検証と目撃者へのヒアリング（いつ・どこで・誰が・どうして・何をした）を実施 ・ 東京都へ状況報告（第一報は30分以内）、対応完了報告 ・ 「緊急連絡網」により本部及び関係機関等へ事故の状況を報告
3 事故原因の究明と事故再発防止策の検討・実施	<ul style="list-style-type: none"> ・ 現場状況やヒアリング結果に基づき、事故の発生原因を明らかにする ・ 再発防止策を検討、迅速な対応策を実施し、東京都へ報告
4 関係者内の情報共有と利用者への注意喚起	<ul style="list-style-type: none"> ・ 事故再発防止策について公園、公園管理関係者内での情報共有を徹底する ・ 必要に応じ、サービスセンターや掲示板、ホームページ等で事故に関するお知らせや再発防止策のための注意喚起を実施
5 管理マニュアルの改定	<ul style="list-style-type: none"> ・ 事故再発防止策を踏まえ、安全・管理に関するマニュアルを速やかに改定

3) 自然災害を未然に防ぐための安全対策と発生時の対応

① 自然災害を未然に防ぐための安全対策

● 首都直下地震等の場合

- ・防災関連施設（防災トイレ、かまどベンチ等）の日常点検
- ・公園管理者として防災に関する知識技術を身に付ける防災学習の実施*
- ・地域関係者との連絡会開催：地域住民、地元自治体、社会福祉協議会、警察、消防等と顔の見える関係を構築するため、連絡会を立上げ、災害時に公園の果たすべき役割や関係者の初動対応等について確認します。お互いの役割を明確にすることで、災害時に都立公園として適切な対応ができるよう備えます。
- ・防災イベント・防災訓練の実施：「防災フェア」や「そなえパークの日」など楽しく学べるイベントや訓練を通して地域防災力を高めます*。
- ・防災パンフレットの作成：公園の役割、防災施設の設置場所、使用方法等をわかりやすく記載*
- ・IP無線の導入：通常電話回線網が使用できない状況を想定し、IP無線を導入し、緊急時における本部と各公園の連絡環境を整備、継続。
*代表企業が管理運営している東京臨海広域防災公園(平成27年6月現在)や構成団体である一般社団法人防災教育普及協会のノウハウを活用



防災キャラバン（六仙公園）

● 気象災害の場合

- ・ナウキャスト（気象庁）や緊急速報メール（各自治体）、気象情報提供サービス（民間企業）等を活用し、情報収集を強化することで、常に最新の気象情報を把握
- ・土嚢やビニールシート、丸太材などの緊急対応のための資材を事前配置
- ・平常時から側溝や雨水枳などの清掃を強化
- ・利用者に危険が及ぶ気象災害（強風時の倒木や落雷等）が予測される場合には、マニュアルに基づき注意喚起や安全な場所への避難誘導を実施
- ・危険が予測される事象の場合には、時系列の行動計画を立てるとともに、東京都と連携を図り、スタッフを配置し、臨機応変に対応
- ・積雪時には、利用動線の除雪と凍結防止処理、必要に応じて利用制限を実施



園路除雪作業（東伏見公園）

② 自然災害発生時の対応

項目	内容
1 災害時の体制への転換、被害状況の確認と利用者の安全確保	<ul style="list-style-type: none"> ・スタッフの安否確認 ・本部に災害対策本部、野川公園に現地対策本部を立上げ統括指揮をとる ・各管理所に「連絡通報係」「安全点検係」「避難支援係」を設置 ・近隣事務所および近隣に在住する従業員が必要に応じて現地に参集
2 被害状況の確認と利用者の安全確保	<ul style="list-style-type: none"> ・園内の被害状況、負傷者の有無の確認 ・園内の利用者を安全な避難場所に誘導 ・危険箇所の立入り禁止、使用禁止措置を行い、安全確保を実施 ・テレビ・ラジオ等による情報等の収集
3 東京都への報告、本部、関係組織への連絡	<ul style="list-style-type: none"> ・負傷者・被害状況等の情報を整理し、東京都へ報告（第一報、定期報告） ・「緊急連絡網」により本部及び関係機関等へ被害状況を報告 ・自治体・消防・警察等の関係機関との連絡調整
4 関係者内の情報共有と利用者への情報提供	<ul style="list-style-type: none"> ・被害状況について公園、公園管理関係者内での情報共有を徹底する ・サービスセンターや掲示板、ホームページ等で災害による被害状況や園内危険箇所への注意喚起を実施 ・必要に応じ安否伝言掲示板の設置 ・園内の利用者へ避難場所や物資の配給場所等の情報提供
*大地震発生後の被災者等支援	<ul style="list-style-type: none"> ・自動販売機等の飲料水などの物品や、最新情報（地震速報・公共交通機関の運行状況・付近一帯の地図等）の提供により帰宅困難者等を支援 ・近隣の小中学校等が避難所となった場合、東京都や自治体との協議の上、被災者の健康維持や子どもたちの遊び場として園内の広場等を使用いただく。また交流の場づくりなど、関係者と連携し被災者支援に協力する。

4) 感染症を未然に防ぐための安全対策と発生時の対応

① 感染症を未然に防ぐための安全対策

- ・発生の危険性が高い箇所（トイレや手洗い等）は「東京都感染症マニュアル2018」に基づき、定期的な施設の洗浄・消毒を実施
- ・手洗い場には薬用石鹸やアルコール消毒液等を設置し、手洗い奨励の貼り紙等による注意喚起・啓発を実施
- ・感染症に関する講習会等に積極的に参加
- ・保健所や関係機関等の情報および新聞・テレビ・ラジオ等より情報を収集

② 感染症発生時の対応

項目	内容
1 国内での患者発生時	<ul style="list-style-type: none"> ・鳥インフルエンザやデング熱、中東呼吸器症候群（MERS）などの感染症の発生時には正確な情報入手、公園間で共有し、厚生労働省や東京都と連携して適切な対応を行うことで感染の拡大を防止 ・従業員は正しい手洗い、うがいを励行するとともに、利用者への呼びかけを徹底 ・利用者、スタッフへの注意喚起や予防啓発（マスク、手洗い等） ・園内の嘔吐跡や体調不良を訴える利用者があった場合は記録し必要に応じ、東京都・保健所等に報告 ・サービスセンターや掲示板、ホームページ等で状況に関する注意喚起を実施 ・東京都や地元自治体等が実施する調査や感染源（蚊など）の駆除、対応策等に全面的に協力 ・感染源の発生箇所になりうる場所の確認と予防対策 【デング熱の場合】雨水排水枳、池、水たまり、竹やぶ、湿地、ゴミの多い場所など蚊の発生源マップを作成し、利用者に注意喚起 ・自治体等が実施する調査や蚊の駆除、対応策等に全面的に協力
2 公園内での患者発生時	<ul style="list-style-type: none"> ・「長袖・長ズボンの着用、サンダル履きをしない、虫よけ剤を使う」といったチラシ等を設置し、利用者への注意喚起を実施 ・東京都と協議の上、施設利用制限、立ち入り禁止措置を行い、発生の伝播の抑制 ・東京都の指示に従い、薬剤散布の実施 ・被害状況について公園、組織内での情報共有を徹底 ・サービスセンターや掲示板、ホームページ等で状況に関する注意喚起を実施

(3) 要望やオリンピック・パラリンピック後も見据えた施設補修、施設改良への取組

1) 施設補修や施設改良に対する考え方 ～予防保全を重視した先行的な施設補修・改良の実施～

施設補修や施設改良について指定管理者として以下の考え方にに基づき、対応します。

- 大規模な補修・改良の必要性が出る前の**予防保全を充実させ**、定期的な点検・保守を継続実施
- 利用者からの意見情報・ニーズを活かした**計画性のある補修・改良**の提案・継続実施
- 利用者の安全性・ユニバーサルな視点**を優先させた予算配分の継続実施
- 緊急性を要するものについては、先行実施など、**迅速で柔軟性のある対応**の継続実施
- 施設補修・改良を実施する際には、**長寿命化・バリアフリー・環境配慮の視点**をふまえ整備を継続実施

2) 都民や東京都からの要望への対応

① 要望内容等の把握

- 施設補修・改良に関する**利用者要望を広く収集**します。
- 要望等の内容を良く聞き、目的や理由、要望項目などの内容を**具体的に確認**し、内容によっては**面談や現地立ち会い**を行います。
- 必要に応じて**専門技術者の見解や現地確認**により、その内容を正確に把握します。

② 施設補修・要望内容等の分類

- 上記の要望内容の把握により、**施設補修・改良の必要性や優先度を検討**し、「利用者の安全に関わる要望」「軽微な修繕の要望」「大規模な修繕の要望」に分類します。
- これまで蓄積してきた意見情報データベースより、**利用者意見の傾向**をふまえ、施設補修・改良の優先度を精査します。

③ 施設補修・要望内容への対応

分類した内容に基づき、下記のとおりに対応します。

- 利用者の安全に関わる要望**
東京都と連絡・協議し、利用者の安全を第一に考えて迅速に対応します。
- 軽微な修繕の要望**
施設の用途や形状変更を伴わない範囲内で迅速に対応します。
- 大規模な修繕の要望**
施設に対する質の向上についての改善要望や公園の環境特性に影響を及ぼす大規模な修繕が必要な要望については、誠実に意見を受け止め、東京都と詳細な協議を行い対応します。
- ユニバーサルな視点の要望**
軽微・大規模に関わらず、多様な方の利用を助ける施設の改良（手すりの設置・案内板への点字追加など）に関する要望については、積極的に実施に向けた検討（東京都への提案・協議）を行います。



ボランティアからの花壇管理通路の整備要望により補修[土舗装] (武蔵国分寺公園)



トイレの臭気改善や清潔トイレ改修の要望により水洗センサーの設置 (武蔵野公園)

④ その後の業務への反映

- 要望等の発生原因を評価検討した上で**PDCAサイクル**に組み込み、業務を改善します。
- 要望等の内容は、経緯を追跡できるよう**管理データベースを作成**し、今後の公園整備、管理運営の情報として活用します。

3) オリンピック・パラリンピック後も見据えた施設補修や施設改良の対応

2020年に開催されるオリンピック・パラリンピックを契機に運動施設や公園施設への利用ニーズが高まることが予想されます。国内外から来園する多くのお客様や障がいを持たれたお客様に、都立公園を心から楽しみ満足していただけるよう、東京都と協議の上、施設補修・改良に積極的に取り組みます。

●公園管理所等をおもてなし拠点として改良・整備

オリンピック・パラリンピックに訪れる国内外から来園する多くのお客様や障がいを持たれたお客様に向けて、**公園のおもてなし拠点として公園管理所の改良・整備**を継続します。具体的には、思わず立ち寄りたくなる管理所内外の装飾や、ユニバーサルデザインに対応する改良、公園特性や地域を紹介する多言語対応への展示替えなどを継続します。また**野川公園の自然観察センター**では、これまで自主事業等による改良に力を入れてきました。今後は外国人客にも武蔵野の魅力を伝え、楽しく学んでいただける展示改良をすすめます。



改装前
自然観察センターの改修事例[床・壁紙・什器等]
(野川公園)



武蔵野地域のいきもの展示例
(野川公園)



オリジナル多言語・ピクトサイン
(野川公園を例にサイン検討中)

●公園内のサインの多言語化

外国からのお客様や障がいを持たれたお客様に向けて、サイン表示の多言語化や案内板への点字追加・ピクトサイン化などを、東京都へ提案・協議の上、継続実施します。

●スポーツ施設の補修・改良

- ・協力団体のミズノ(株)の運動施設管理ノウハウを活用し、野球場やテニスコートなどで、**安全かつ快適なグラウンドコンディション**を保ちます。
- ・都民のライフスタイルにスポーツが定着するよう、園路等を**ウォーキングやジョギングコース**として活用できる改良などを、東京都へ提案・協議の上、実施します。



グラウンドの排水不良の改良(武蔵野公園)



野球場フェンスの鋼材塗装
(武蔵野公園)



人工芝テニスコートの不陸修繕
(野川公園)

●施設のバリアフリー化

- ・障がい者団体等と連携し、使いにくい箇所をチェックします。特に建物周りや入口付近等、利用率の高い箇所を優先し、できる限り改修、これを継続します。
- ・サインなどを多言語で表記します(既存のものは改修)。
- ・主要施設へスムーズに誘導するための距離表示を園内に整備します(野川)。

4) 資金計画の考え方

- ・原則として、施設補修・修繕費が30万円未満のものに対しては、あらかじめ補修のための**年間予算として計上した資金(消耗品費等)**を活用し補修します。
- ・30万円以上の施設の補修については、「**緊急対応等経費**」により行います。あらかじめ年間の執行計画を東京都と協議により定め、緊急性の高いものについては**柔軟に計画を変更**して対応します。
- ・施設補修・修繕のための年間予算や、東京都の「緊急対応等経費」を執行した後に、さらに緊急性を要する施設補修・修繕の必要性が出てきた場合は、東京都と協議の上で先行実施を行う等、自己資金により**柔軟に対応**します。
- ・対応が困難な大規模の施設補修・修繕は、**都と協議のうえ、整備工事**として対応いただきます。
- ・日常のこまめな点検、補修などにより施設の長寿命化・予防保全を図ることで、効果的な資金運営を図ります。
- ・全国の都市公園の管理運営で培ってきた民間ならではの柔軟なノウハウにより自主事業を実施し、都立公園の役割を踏まえながら収益の拡大を図り、公園の魅力づくりのために収益を還元します。
- ・東京都と協議の上、積極的に企業協賛を検討します。

(4) 維持管理業務の進め方

野川公園の維持管理について植物管理と施設管理に分けて記入してください。
 植物管理については標準的な作業時期をバーで示すとともに作業内容を記述して下さい。
 施設管理については作業内容や標準頻度、留意点等を記述して下さい。

区分	対象施設/設置場所等	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
植物管理	草地	広場	草刈(草刈は範囲が広いことから、複数班編成によって効率的に行う) ※この他、フデリンドウ群生地など生物多様性に配慮した草刈を実施								※高品質な芝地環境を再生するための作業 (播種、エアレーション等)を必要に応じ実施			
		生物多様性スポット	春植物の開花(調査) バッタ類幼虫孵化(調査)		秋植物の開花(調査) バッタ類産卵(調査)		春植物の開花(調査)		各スポットの除草 (植物の芽生え促進)					
	植込地	園内全域	新緑期枯枝調査		剪定		台風前枯枝調査		剪定		ロウバイをはじめ落葉樹等の剪定			
		【高木】	樹木医による腐朽調査		危険性のある樹木剪定・伐採									
		【低木】	刈込		ツル植物等除去		マツ樹幹注入							
	生物多様性スポット	キンラン等の開花(調査)		マヤランの開花(調査)		落ち葉かき(菌根菌育成)								
	園内全域	枯損木、危険木の剪定・伐採 「野川公園緑の愛護ボランティア」による手入れ作業(3回/月) (各ゾーンの特性に応じた草刈りや刈り、外来種引き抜きなどを実施)												
	野鳥の森ゾーン	夏鳥の繁殖(調査)		冬鳥の渡来(調査)		アマガエルの産卵(調査)		あか池の除草(カエル産卵用の水域確保)						
	ほたるゾーン (ほたるの里とヒガンバナ群生地)	ホタル上陸・蛹化		ホタル成虫(調査)		ヒガンバナ開花		低木の間伐・枝打ち、選択除草 (ホタル飛翔空間と林床照度の確保)						
	水生植物ゾーン	ヨシなど高茎植物の刈り取り、選択除草 (昆虫類が生息する草地と水生植物保全のため)		枯れ草の刈り取り、ヨシの抜根、湿地表土の攪乱 (植物の芽吹きを促進するため。昆虫類の越冬場所に配慮した刈り残し)										
	林と原っぱゾーン 森と野草のゾーン	キンランなど 春の野草開花		ノカンゾウなど 夏の野草開花		リンドウなど 秋の野草開花		カタクリなど 早春の野草開花						
	意見交換会	「野川公園緑の愛護ボランティア」と植物管理に関する意見交換会を実施(1回/月) 専門家を交えた検討会を実施(1回/3ヵ月)												

区分	対象施設／設置場所等	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
施設管理	テニスコート	← 落葉、花殻清掃 ↔		← 人工芝目立て・砂の攪拌(1回/年) ↔						← 落葉清掃 →		→ コート砂入れ(通年・適宜) ←		
		フェンス際除草(1回/月、つる性を重点除去)												
		週末は稼働率が高いので、平日に重点的な点検を行うほか、ミズノ柵による専門的な点検を適宜行う。 施設時にネットや人工芝・砂などの状況確認、必要に応じて補修を行う。 降雪時は速やかな除雪を行い、早期開園を目指す(H26年度は降雪日の翌日午後から開園した)。												
	遊具	自由広場ほか	← 精密点検(2回/年) ↔		← 遊具補修(2回/年) ↔		← 精密点検(2回/年) ↔		← 遊具補修(2回/年) ↔		← 日常点検(1回/日)・補修(適宜) ↔		← 月例点検(1回/月) ↔	
			事故が発生しないよう、異常の早期発見、補修を心がける。 このため、日常巡回時の点検、月1回の重点的な点検、年2回の業者による専門的な点検を実施する。 異常が確認された場合、軽微なものであれば早急に補修を実施し、重篤なものであれば使用禁止の措置を取り業者修理を実施する。											
便所	園内全域	← 日常点検(7回/週) ↔		← 特別清掃(1回/年) ↔		← 日常清掃(2~3回/週) ↔								
		日常巡回時に汚れ、故障などの確認を行い、清潔なトイレの保持を図る。 年1回、特別清掃を行い、床面のコーティング、尿石除去、壁面塗装など常時トイレを清潔に保つ清掃を行う。 H25年度に全改築された4、6号トイレは排水管等のトラブルが多いので定期的に重点清掃を行う。												
排水施設	園内全域	← 梅雨前清掃(1回/年) ↔		← 台風前清掃(1回/年) ↔		← 降雪前清掃(1回/年) ↔				← 日常点検(7回/週) ↔		← 清掃(適宜) ↔		
		梅雨前や台風前などに重点的な排水樹、側溝の清掃を実施し、機能の保全を図る。 埋設浸透樹が多く、泥がたまりやすいことから、日常点検により状況を把握し、機能確保を図る。 大雨洪水警報発令の可能性がある場合は事前に排水施設を点検し、園内冠水などを防止する。												
公園橋	一之橋ほか	← 花殻清掃 ↔						← 落葉清掃 →				← 日常点検(7回/週) ↔		
		日常点検では破損、不具合の有無、塗装の状況などの確認を行う。 各橋とも1回/5年程度で構造の点検を行う(新規提案)。 降雪後は凍結しやすいため、早期の除雪、融雪剤散布を行う。												